

令和元年11月22日(金)

尾道市立浦崎中学校 総合的な学習の時間指導演案

指導者：甲田和子 岡野良夫 本田義信

単元 未来貢献プロジェクト 農業グループ

第1学年 9名 第2学年 4名 第3学年 3名 計16名

学習指導要領の目標

「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。」

単元の概要

学習テーマを地域貢献とし「地域貢献をするためには何ができるか」という課題意識を持たせ、全学年を3つの縦割りグループに分けて、話し合い、出た意見を整理・分析し、実現可能かつ地域が活性化する案を考えさせることを通して、「つながる知識」「主体的に学ぶ力」「思考力・表現力」「かかわる力」を育成する。

単元について

単元観：新学習指導要領総合的な学習の時間編の目標には、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とある。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

地域貢献を通して、我が校がつけたい資質・能力である「つながる知識」「主体的に学ぶ力」「思考力・表現力」「かかわる力」の育成に適していると考ええる。

生徒観：本校は以前、総合的な学習の時間で、毎年ほぼ同様の内容を行っていた。それは、職場訪問や職場体験、高校訪問など行事に向けた「調べ、まとめ、発表する」学習にとどまっており、課題発見や自分とのかかわりを深く考えるという視点が不足していた。調べ学習でも、調べた内容を発表したところで完結し、拡がりがないものであった。

一方で、生徒の郷土への愛着は非常に強い。「浦崎町が好きである。」という質問に、96%が肯定的な回答をし、「浦崎町のために何かしてみたい。」という質問にも、96%が肯定的に回答した。こうした意識を持っているため、学習に大変意欲的に取り組む姿が見られる。

しかし、「自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫している。」には24%、「ものごとを解決したり決めたりするとき、なぜそうなるのか理由を考えている。」に16%、「自分の考えをまとめるときは、理由と根拠を整理している。」に16%が否定的に回答しており、生徒の4分の1～6分の1には、まだ思考や表現の工夫ができていないことがわかる。本校の生徒に、論理的な思考力・表現力を育てていくことは、重要な課題である。

指導観：指導に当たっては、全学年を縦割りとし、生徒の興味・関心によって「農業」、「漁業」、「社会」の3グループに分け、異年齢集団をつくる。各グループでは、所属する個人それぞれが「地域貢献をするためには何ができるか」という課題意識を持ち、話し合い、出た意見を整理・分析し、実現可能かつ地域が活性化する案を考えさせる。他者との意見交流から解決策を考えることや地域とのかかわりを考えること、体験すること等を通して、「主体的に学ぶ力」や「かかわる力」を育成する。

また、発表等の場面で表現力の育成を図るとともに、活動の振り返りをする場を設け自らの成長を感じ取らせることで、意欲を向上させたり、新たな課題を見つけさせたりする機会とする。

本時では、農業グループにおいて、収穫した甘藍やサツマイモなどを地域の方や保護者に提供する地域のまつりや文化祭に向けて、収穫物の調理方法を模索させる場とさせたい。そのため、事前に3年生のリーダーと綿密な打ち合わせを行い、生徒の動き主導で1時間の授業を展開していくとともに、事後に再度3年生のリーダーと振り返りの場を設け、次時につなげていきたい。

単元の目標と評価規準

単元の目標	総合的な学習の時間の、地域貢献活動を通して、「つながる知識」「主体的に学ぶ力」「思考力・表現力」「かかわる力」の育成を目指す。		
つながる知識	主体的に学ぶ力	思考力・表現力	かかわる力
①各教科等で得た知識を使って、答えようとしている。(ア)	①自分のすべき以上のことを見つけ、行動している。(イ) ②自分の意見を持って、授業での話し合いに参加し、発言・行動し、新たな課題を見つけている。(ウ)	①教科で得た知識や、複数の情報を精査し、自分の考えを形成している。(エ) ②自分の考えを、相手や集団が納得できるように、根拠を持って相手に伝えている。(オ)	①相手の伝えたいことを理解し、自分の考えを深めている。(カ) ②自分の考えを、相手や集団に伝え、その集団によい影響を与えている。(キ)

指導と評価の計画（全20時間）

段階	月	学 習 活 動	評価基準及び 主な評価方法	関連教科
課題 の 設定	4	1 浦崎の未来に貢献するためのアイデアの検討 (2時間)	☆主②(ウ) ・行動観察 ・ワークシート	
	5	・甘藍をもっとアピールしよう。(農業グループ) ・アサリを海に呼び戻そう(漁業グループ) ・サイクリング客を呼び込もう(社会グループ)		
情報 の 収集 ・ 整理 ・ 分析	6	2 アイデアを実現させるための情報の収集, 整理・分析 (4時間)	☆つ①(ア) ・ワークシート	理科(『未来へ広がるサイエンス2』 p.2~63) 社会(『中学生の地理』p.266~275)
	7 8	3 アイデアをもとにした企画書の作成(4時間)	☆思①(エ) ・企画書	
創造 ・ 表現	9	4 企画実行のための準備(1時間)	☆か①(カ) ・行動観察	国語(『国語2』p.34~38) 国語(『国語1』p.56~66)
	10	5 企画の実行(2時間)	☆主①(イ) ・成果物	
	11	6 発表・ふり返り(2時間)	☆思②(オ) ・ワークシート	
新たな 課題 の 設定	11	7 新たな課題の発見(1時間)【本時】	☆主②(ウ) ・行動観察 ・ワークシート	国語(『国語2』p.34~38)
	12	8 新たな課題を解決するための方策の検討(1時間)	☆か②(キ) ・行動観察	
情報 収集	1	9 新たな課題の解決のための企画書の作成・発表 (2時間)	☆思①(エ) ・企画書	国語(『国語1』p.56~66)
まとめ	2	10 次年度に向けての準備(1時間)	☆か①(カ) ・ワークシート	
	3			

本時の学習

(1) 本時の目標

収穫したサツマイモを、地域の方に提供できる方法を考えさせる。

(2) 準備物

まな板、包丁、ボウル、ラップ、揚げ物用鍋、菜箸またはトング、揚げバット、網、ガスコンロ、調理台

(3) 学習の展開

	学習活動	指導の留意点や指導事項 (○留意点 ☆言語活動 ●「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 学習課題を確認する。 ・「収穫したサツマイモを、地域の祭りや文化祭で提供できる調理法を考える」という学習課題を把握する。	○3年生のリーダーから、本時の学習課題を提示させる。 ●事前に、3年生のリーダーと、本日の授業展開について打ち合わせをしておく。	
	<学習課題> サツマイモをどう調理すれば、地域の方に美味しく食べていただけるだろうか。		
	2 学習課題を確認する。 ・サツマイモの調理法を考える。 ☆個人思考	○出された調理法は、次時に生かすことを確認した上で、本時はサツマイモを揚げてみることを提案する。	
	3 本日のめあてを確認する。 <めあて> サツマイモの揚げ方を工夫しよう。		
展開 35分	4 サツマイモ揚げ方を理解し、工夫すべき方法を考える。 ☆個人思考	○基本となるサツマイモの揚げ方を理解させる。	
	5 グループで意見を紹介しあう。 ・グループごとで、個人の予想した方法を出し合い、どの方法が有効であるかを話し合う。 ☆集団思考	○農業グループの中を、各学年の生徒がいるようにさらに3つにグループ分けをする。 ●グループ分けは、事前に3年生のリーダーを主体に行わせ、1・2年生を上級生が支援できるよう見守る。	【主体的に学ぶ力】 自分の意見を持って、話し合いに参加したり相手の伝えたいことを理解し、自分の考えを深めたりしているか。 (視線、声、内容) ⇒行動観察
	6 グループで考えた方法で、サツマイモを揚げる。 7 サツマイモの揚げ具合を吟味する。 ・地域の方や保護者に喜んで食べてもらえる揚げ方がグループで吟味し、改善策を出し合う。	●サツマイモを切る大きさ、揚げる時間などを考えさせる。	

	<p>8 再度考えた方法でサツマイモを揚げ、揚げ具合を吟味する。</p> <p>・揚げ方を様々に変えながら、試行錯誤する。</p>		
ま と め 10 分	<p>9 グループで1番よかったサツマイモの揚げ方を発表する。</p> <p>10 振り返りを記入する。</p>	<p>○ 仲間の意見を聴いて共感したことや、考えたことを基に記入させる。</p>	